

# 2021年ゴールデンウィークの主要都市・観光地宿泊稼働指数 ～都市部では低迷、観光地では回復がみられる

2021年5月17日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

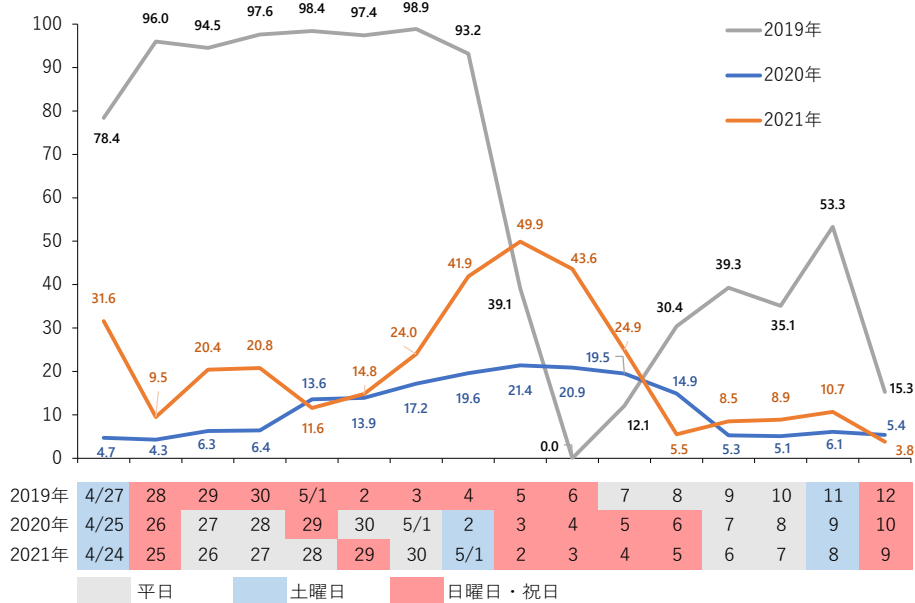
九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、API やスクレイピングによって日々収集したインターネット上のビッグデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、市区町村別の宿泊施設の稼働状況をリアルタイムで把握できる「日次宿泊稼働指数<sup>1</sup>」を活用し、2021年ゴールデンウィークにおける九州地域主要都市・観光地の宿泊施設の稼働状況を示す。

## 1. 九州7県の稼働指数推移： 前年を上回るも、連休後には悪化

- ✓ 2021年のゴールデンウィークにおける宿泊施設の稼働状況は、新型コロナウイルス感染拡大による1度目の緊急事態宣言期間中だった2020年を上回った。
- ✓ カレンダー上の5連休中(5/1～5)には一時50近くまで回復した。改元に伴う10連休によってフル稼働に近かった2019年の水準には遠く及ばないが、一部の観光地において人の動きがみられた。
- ✓ ただし、連休後には2020年並みの1桁台に悪化している。九州でも福岡県において緊急事態宣言が発出されるなど感染状況が悪化しており、低迷が懸念される。

図1 宿泊稼働指数(原数値)の推移(九州7県)



資料) 九経調 DATASALAD

<sup>1</sup> 宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、九経調が独自に推計。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。算出方法は「参考資料」を参照

## 2. 県および主要都市・観光地の稼働指数推移： 都市部と観光地で明暗

- ✓ 県別の2021年の水準は、大分県（50.9）、佐賀県（48.5）、沖縄県（44.5）で高く、福岡県（24.2）、宮崎県（30.9）、長崎県（33.0）で低い。2020年と比較すると、佐賀県（+34.9）や沖縄県（+26.8）で2020年を大きく上回っている。一方、宮崎県（+0.5）、長崎県（+8.7）、福岡県（+11.8）の改善幅は小さい。
- ✓ 各県主要都市・観光地の2021年の水準は、嬉野市（88.3）、由布市（80.6）、名護市（75.3）などで高く、延岡市（23.7）、福岡市（25.7）、長崎市（26.8）などで低い。2020年と比較すると、佐賀市（+65.5）、石垣市（+64.0）、阿蘇市（+48.4）で2020年を大きく上回っている。一方、長崎市（▲18.7）、武雄市（▲11.9）、宮崎市（▲1.2）では前年を下回っている。
- ✓ 一部例外はあるものの、全体的な傾向としては、ビジネス需要の割合が高い都市部では戻りが鈍く、温泉やリゾートなどの観光地では感染状況に応じて回復がみられる。

表2 県および主要都市・観光地の宿泊稼働指数連休期間平均値（原数値）

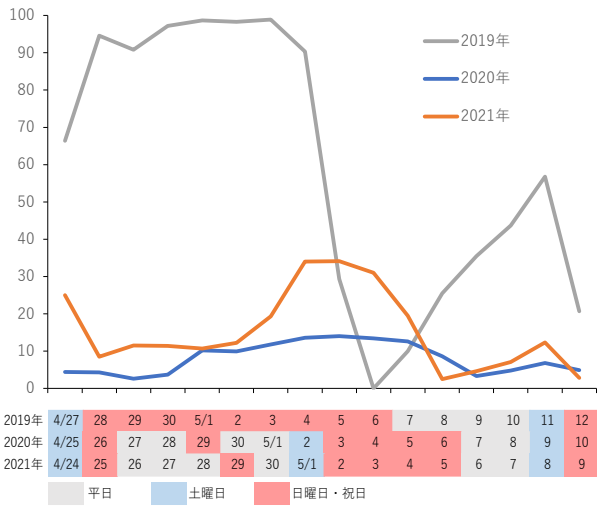
	2019年	2020年	2021年	2021年	
	(4/27-5/6の平均)	(5/2-5/6の平均)	(5/1-5/5の平均)	2019年との差	2020年との差
九州7県	79.4	19.3	33.2	▲46.2	13.9
福岡県	76.5	12.4	24.2	▲52.2	11.8
北九州市	80.8	12.5	30.8	▲50.0	18.3
福岡市	74.9	15.5	25.7	▲49.3	10.2
佐賀県	80.0	13.6	48.5	▲31.5	34.9
佐賀市	75.5	4.4	69.9	▲5.6	65.5
武雄市	91.6	57.9	46.0	▲45.6	▲11.9
嬉野市	95.0	62.1	88.3	▲6.7	26.2
長崎県	83.7	24.3	33.0	▲50.7	8.7
長崎市	83.2	45.4	26.8	▲56.5	▲18.7
佐世保市	88.0	21.9	55.6	▲32.4	33.7
島原市	86.2	44.0	57.4	▲28.8	13.5
雲仙市	90.5	30.4	71.0	▲19.6	40.6
熊本県	82.1	22.8	37.9	▲44.2	15.2
熊本市	80.8	28.0	34.6	▲46.2	6.5
阿蘇市	90.1	21.6	70.0	▲20.2	48.4
大分県	83.9	25.2	50.9	▲33.1	25.7
大分市	82.7	20.9	48.1	▲34.6	27.2
別府市	87.3	39.9	61.4	▲25.9	21.5
由布市	91.8	57.3	80.6	▲11.2	23.3
宮崎県	78.0	30.5	30.9	▲47.0	0.5
宮崎市	80.7	38.5	37.3	▲43.5	▲1.2
延岡市	75.3	19.9	23.7	▲51.6	3.8
鹿児島県	78.9	20.5	39.0	▲39.9	18.5
鹿児島市	83.5	23.8	47.4	▲36.2	23.6
霧島市	85.5	12.5	47.9	▲37.6	35.4
沖縄県	66.1	17.6	44.5	▲21.6	26.8
那覇市	61.9	14.2	33.8	▲28.0	19.7
石垣市	72.0	9.2	73.1	1.1	64.0
名護市	72.6	48.8	75.3	2.7	26.5
山口県	83.3	14.2	37.2	▲46.1	23.1
下関市	88.2	42.2	51.7	▲36.5	9.5
山口市	85.0	12.5	45.6	▲39.3	33.1

注) 休日が連続する期間の平均値

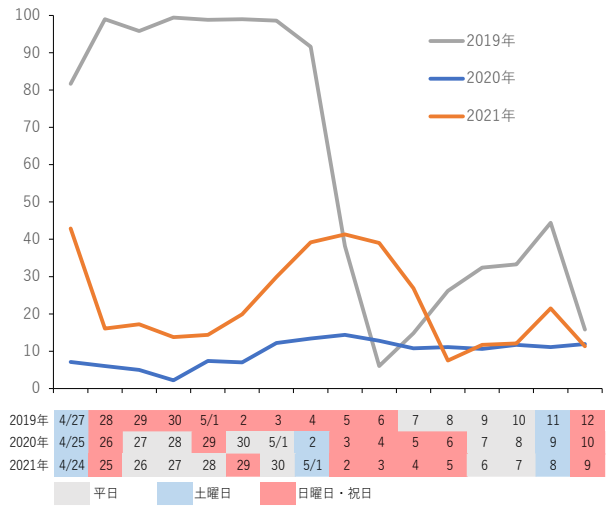
資料) 九経調 DATASALAD

図2 宿泊稼働指数（原数値）の推移

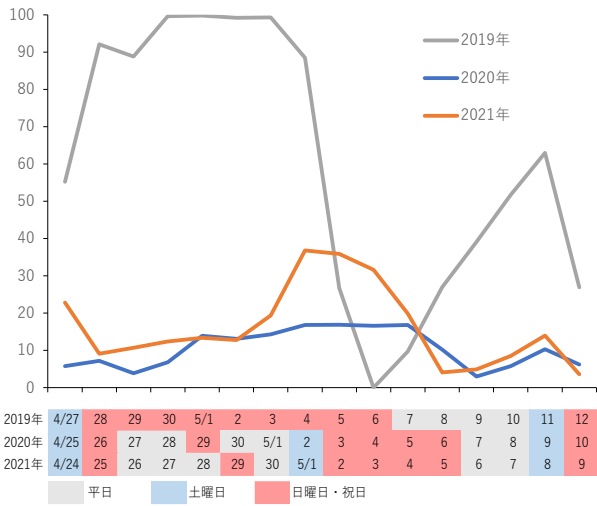
福岡県



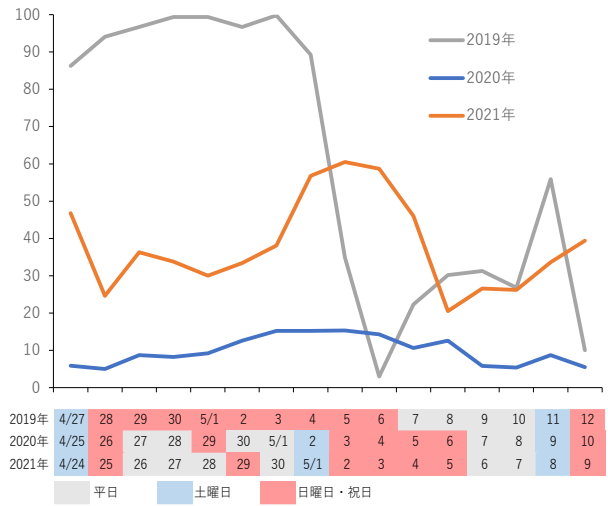
北九州市



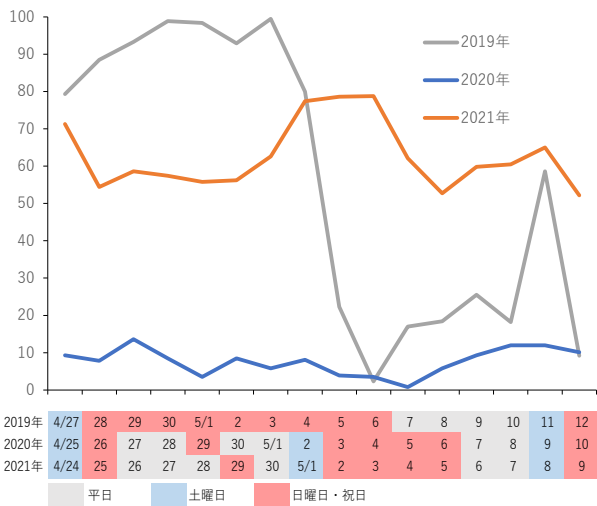
福岡市



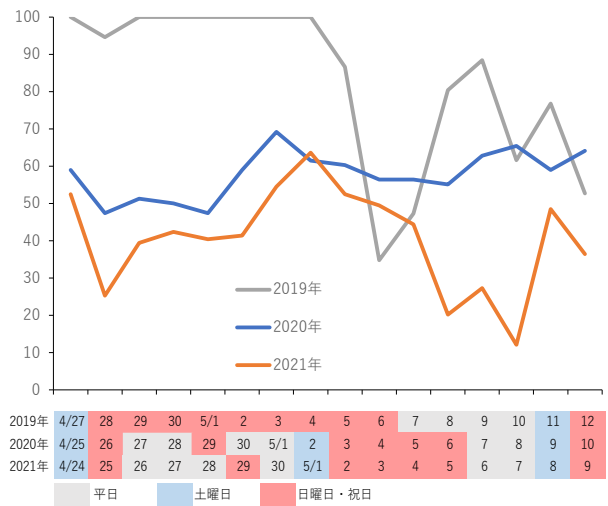
佐賀県



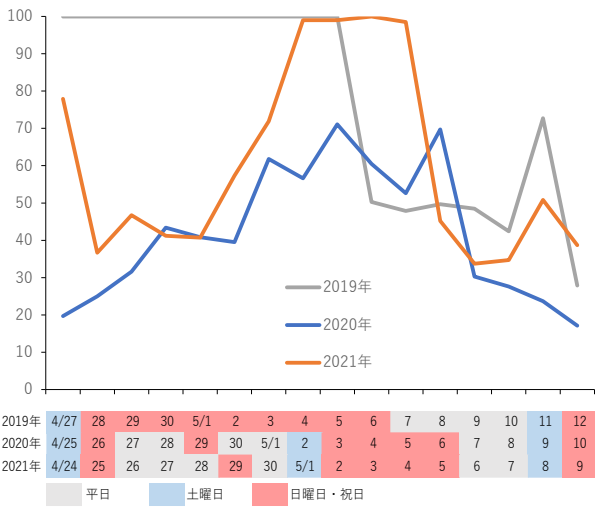
佐賀市



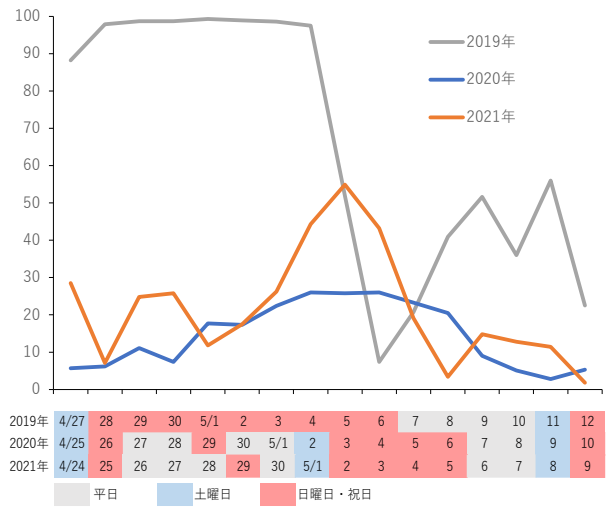
武雄市



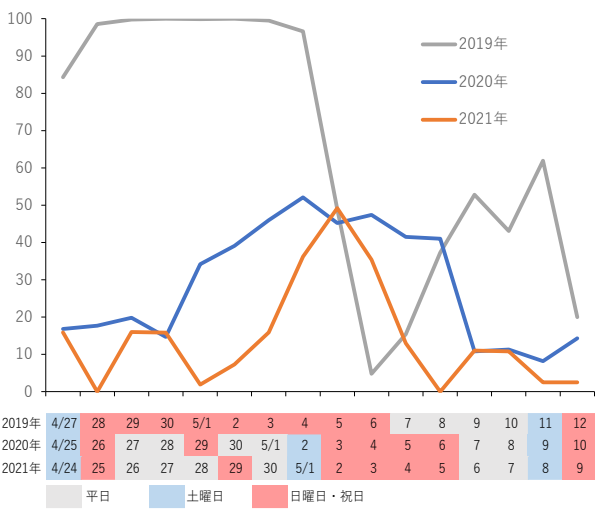
嬉野市



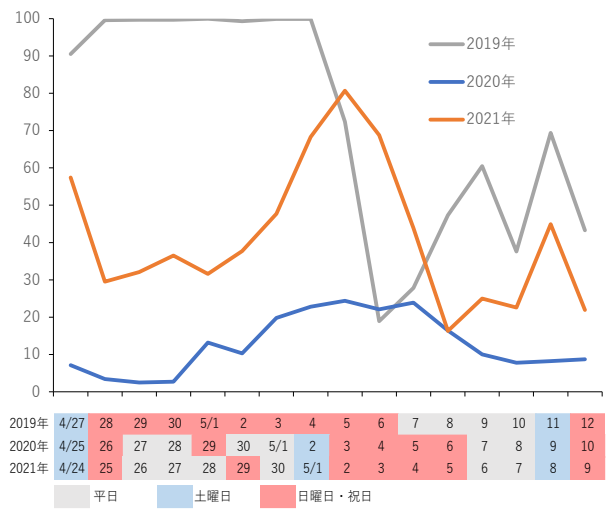
長崎県



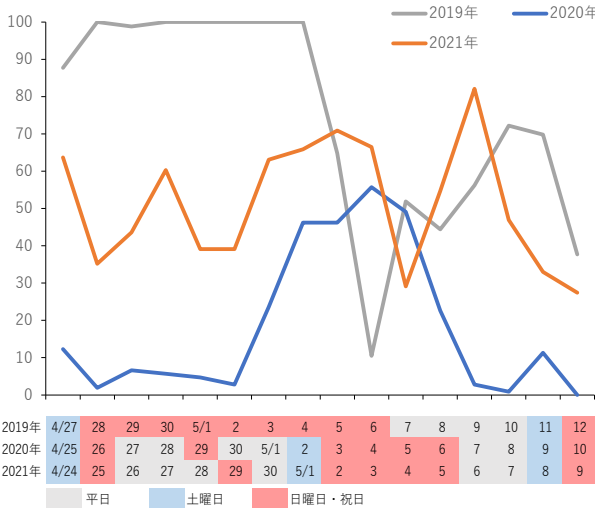
長崎市



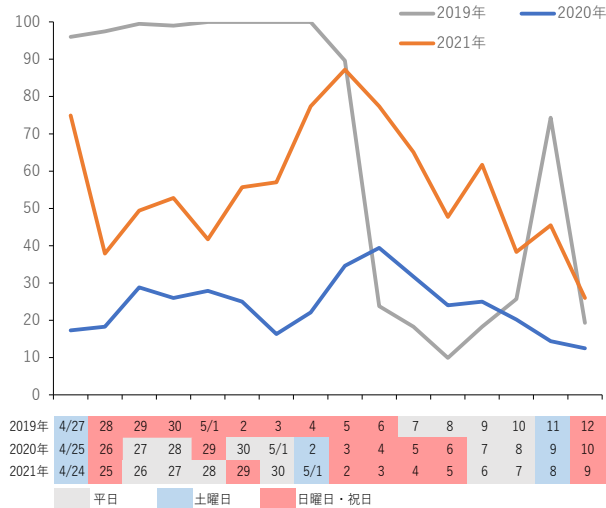
佐世保市



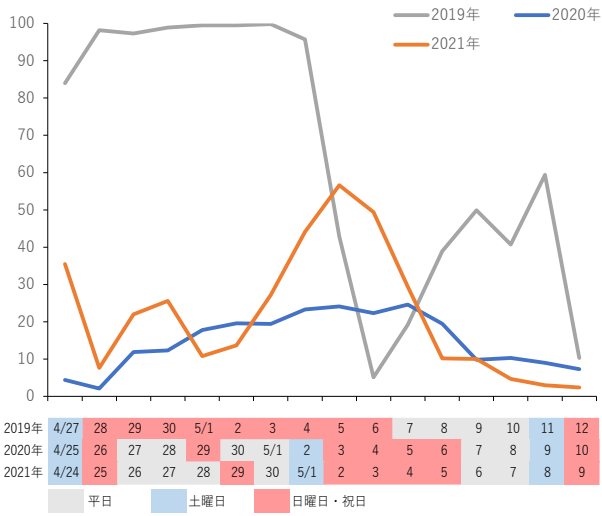
島原市



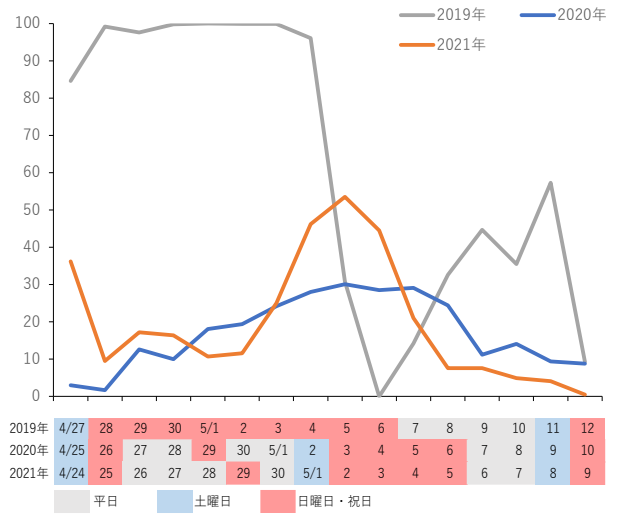
雲仙市



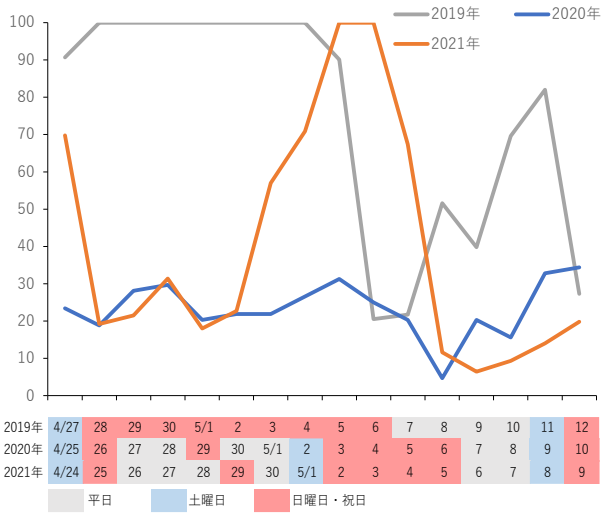
熊本県



熊本市



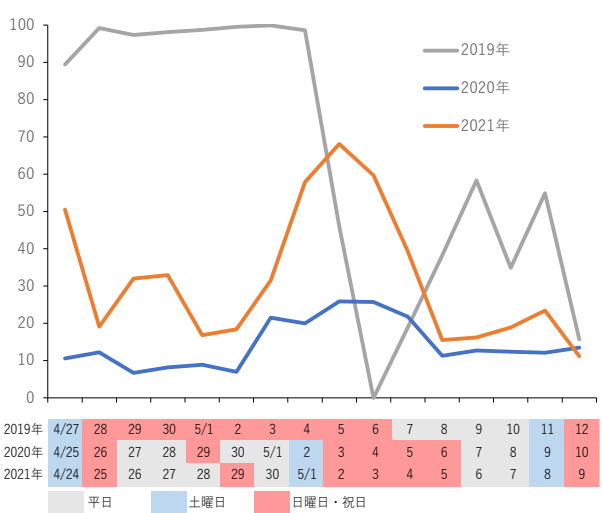
阿蘇市



大分県



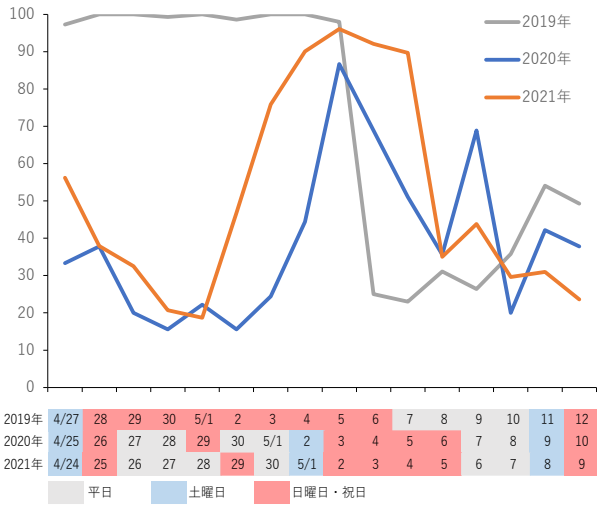
大分市



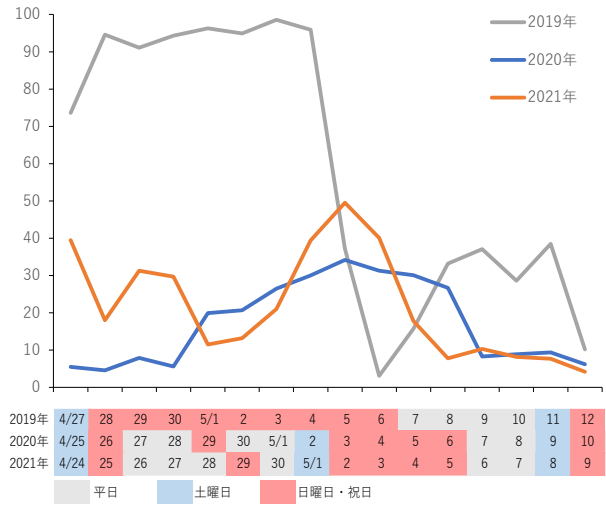
別府市



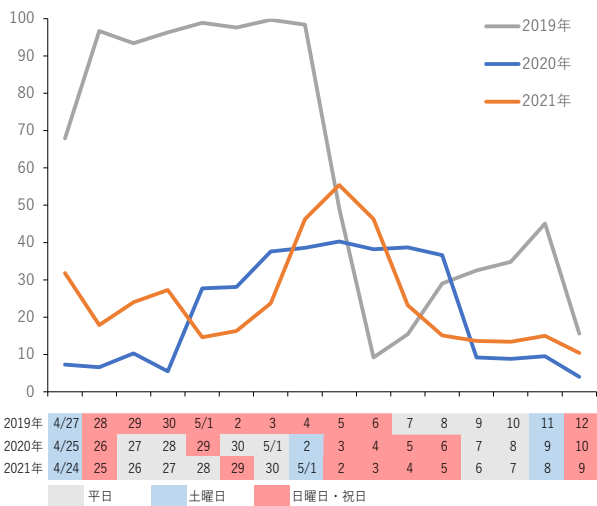
由布市



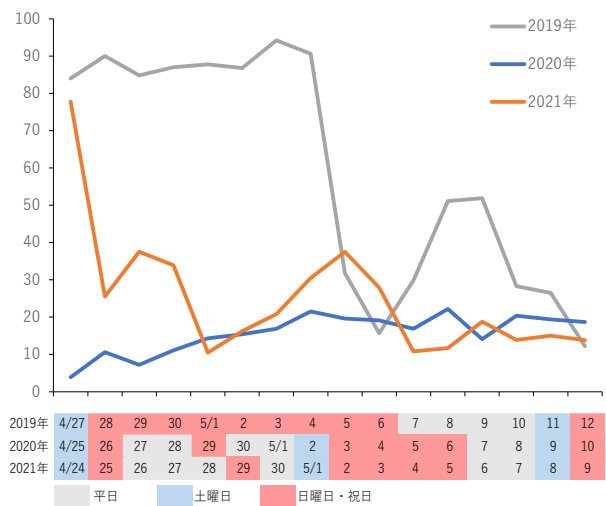
宮崎県



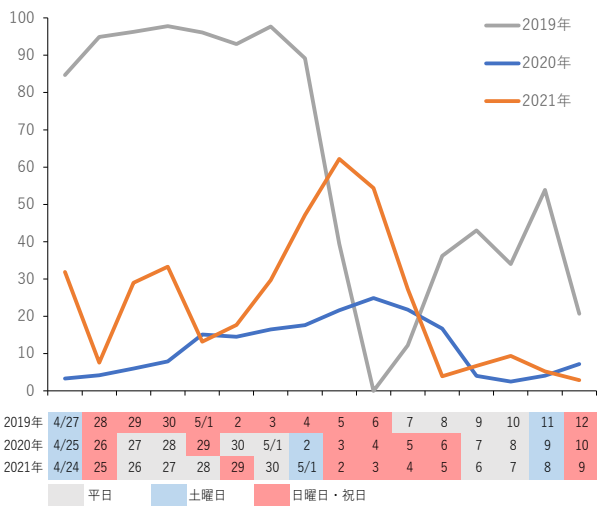
宮崎市



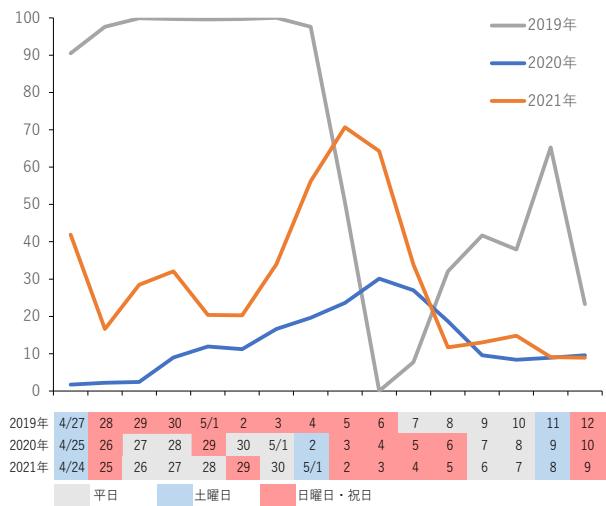
延岡市



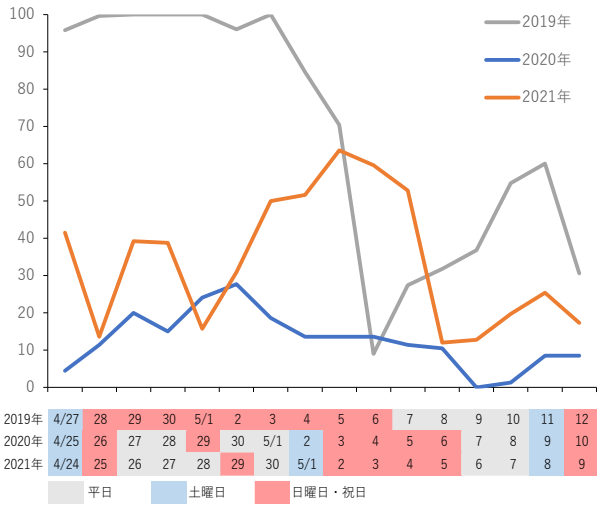
鹿児島県



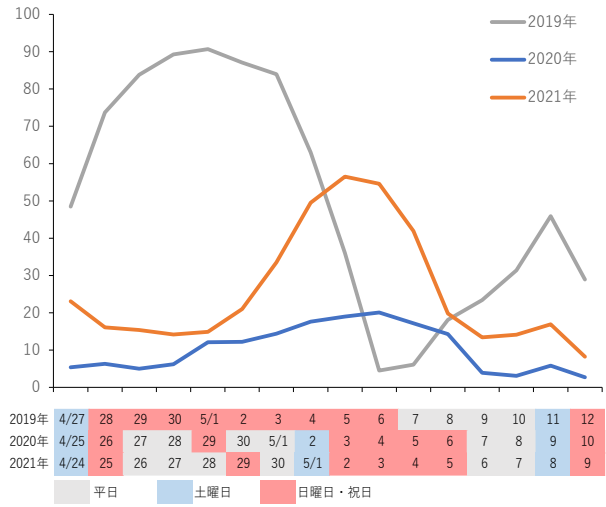
鹿児島市



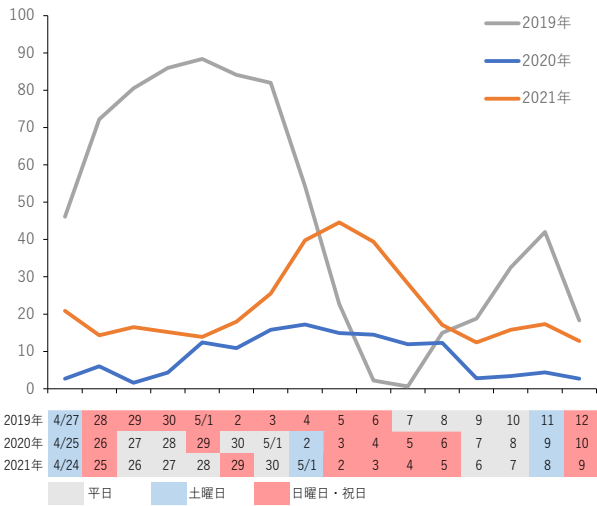
霧島市



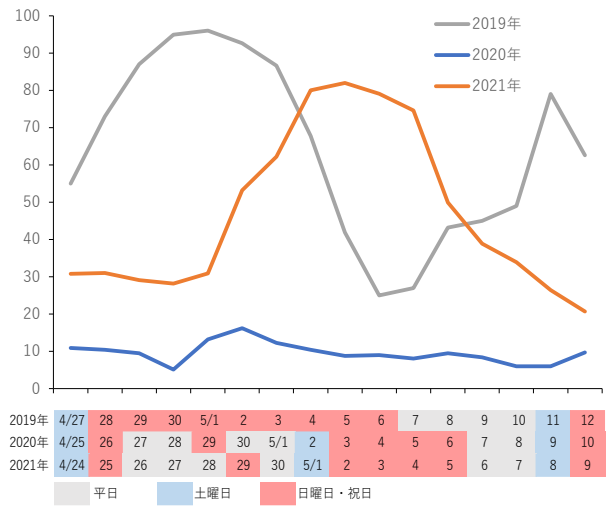
沖繩県



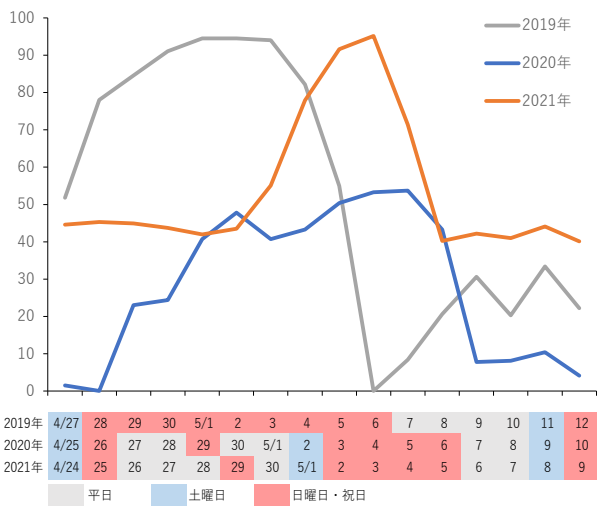
那覇市



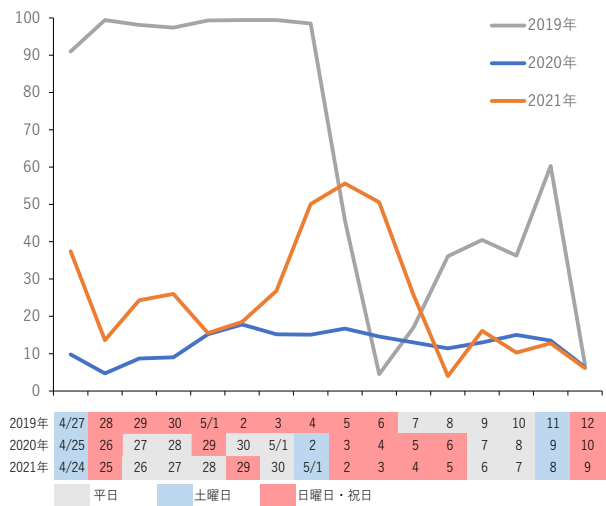
石垣市



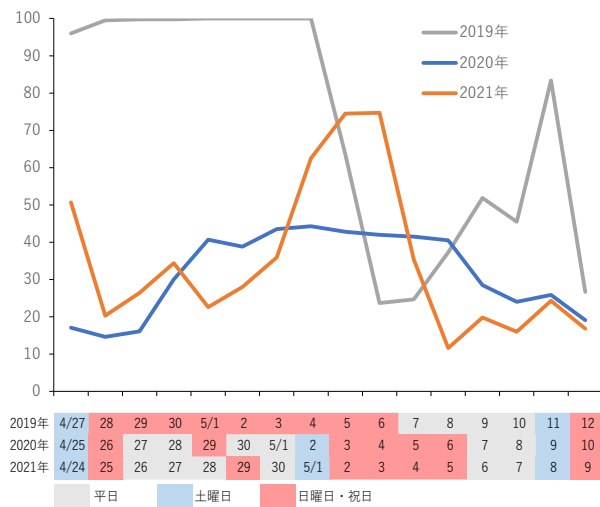
名護市



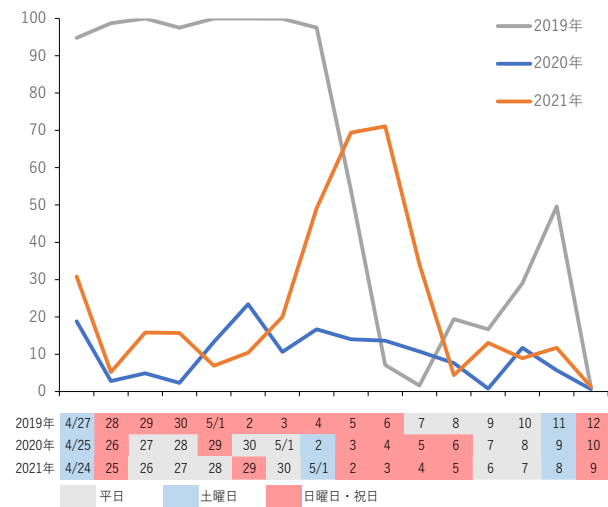
山口県



## 下関市



## 山口市



資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二 (事業開発部 研究主査)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

## 参考資料

## 1. 宿泊稼働指数の算出方法

## ■日次 (原数値)

$$100 - \left( \frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

※当該地域において、宿泊施設が過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出

※空室情報の取得開始時期が2017年7月であるため、2018年7月～2019年6月については過去365日以上730日未満の最大・最小空室数より算出している

## 2. 緊急事態宣言発令に伴う対応

## ■休業施設を除いた特別集計

2020年4～5月における緊急事態宣言の発令に伴い宿泊施設の休業がみられた。その影響がある2020年4～6月の宿泊稼働指数は、休業した宿泊施設を除くための処理を行って算出した。具体的には、2020年4月に20日以上かつ2020年5月に20日以上空室が提供されている施設のみを対象に指数を算出した

## ■特別集計との接続

2021年4月以降に発表している宿泊稼働指数は、全サンプルによる集計(2018年7月～2020年3月および2020年7月～)と上述の特別集計(2020年4月～2020年6月)を接続したものである。原数値を接続した上で、曜日調整をおこなっている